



小栗外傳



第三  
上之

^13  
3919  
10









二のちもちほえと。時今三まの未なる。四方の風き四時は勝りの。明日  
 夫婦結とも。郊外女。萌生。藤を摘先と。尋ねて春遊をせ入の  
 いり。かちほと。父えらね。花見の夫と。おもに。をえん。この嬉しく。あせ  
 は。こよ。樂しからんと。あつ。此。と。父母。夢へて。その。免され。を。ひて。翌日  
 小栗元見。うち。は。ま。と。相川。垂井。里。など。呻。吟。を。花。を。捜。索。菜。を。摘。ぐ。  
 樂。と。檀。の。小。栗。と。竹。隙。を。窺。ひ。走。去。ん。と。それ。と。花。見。傍。を。ま。が。り  
 詮。さ。ね。角。さ。る。海。と。か。足。も。勞。と。ぬ。と。か。あ。る。茶。店。か。体。ひ。て。  
 人の。行。き。う。ち。ん。住。り。居。り。た。ぬ。は。脚。夫。め。ま。は。漢。子。此。茶。店。よ。も。ら  
 入。り。主。の。箱。に。對。し。青。墓。の。万。長。う。許。を。何。も。と。付。る。と。同。み。箱。ひ。ひ  
 ば。き。て。彼。亦。か。え。も。森。を。長。敷。の。山。と。斯。く。と。近。た。れ。と。道  
 徑。曲。り。れ。六。十。四。五。町。が。や。ど。り。の。ね。道。此。山。か。体。ひ。く。往。ま。と。一。椀。の。茶。を。

汲。て。ふ。の。ま。の。脚。夫。喜。び。茶。を。飯。ま。ぐ。我。亦。と。三。河。國。二。村。山。の。麓。の。岩  
 かり。近。に。我。里。の。宗。丹。と。い。ふ。人。の。お。と。と。能。重。う。と。と。か。ね。ぬ。その。人  
 先日。此。山。の。万。長。の。許。を。ま。は。る。は。其。家。より。して。安。否。を。問。ん。と。こ。を。を  
 府。へ。て。使。ふ。身。ね。と。お。話。を。は。を。小。栗。う。ち。の。脚。夫。よ。じ。り。し。足。下。の。尋。ね  
 宗。丹。の。基。の。家。の。何。事。ぞ。あり。や。と。い。ふ。脚。夫。か。驚。ひ。て。ま。て。と。宗。丹  
 主。も。は。は。も。と。宜。所。と。て。入。泰。一。げ。ん。と。車。を。是。の。小。を。尋。ね。の。り。し。と。宗。丹  
 な。り。と。首。お。掛。る。書。状。箱。と。り。て。小。栗。う。ち。の。一。壺。け。の。文。箱。を。む。き。き  
 ち。れ。を。開。く。か。の。界。の。ら。ぶ。縁。故。あり。て。君。万。長。う。許。に。い。て。せ。の。ま。の。こ。を。ま  
 と。う。と。う。と。る。ま。の。は。へ。上。と。か。け。の。ね。の。は。ま。遠。く。還。り。の。り。ん。と。か  
 顔。か。の。と。對。し。子。細。を。家。と。小。栗。首。を。傾。け。暫。時。沈。思。し。て。あ。ま。り。中  
 の。て。悲。首。腰。間。の。矢。支。を。取。出。し。懷。紙。は。返。向。を。記。り。脚。夫。よ。と。い。ふ。人。の。く

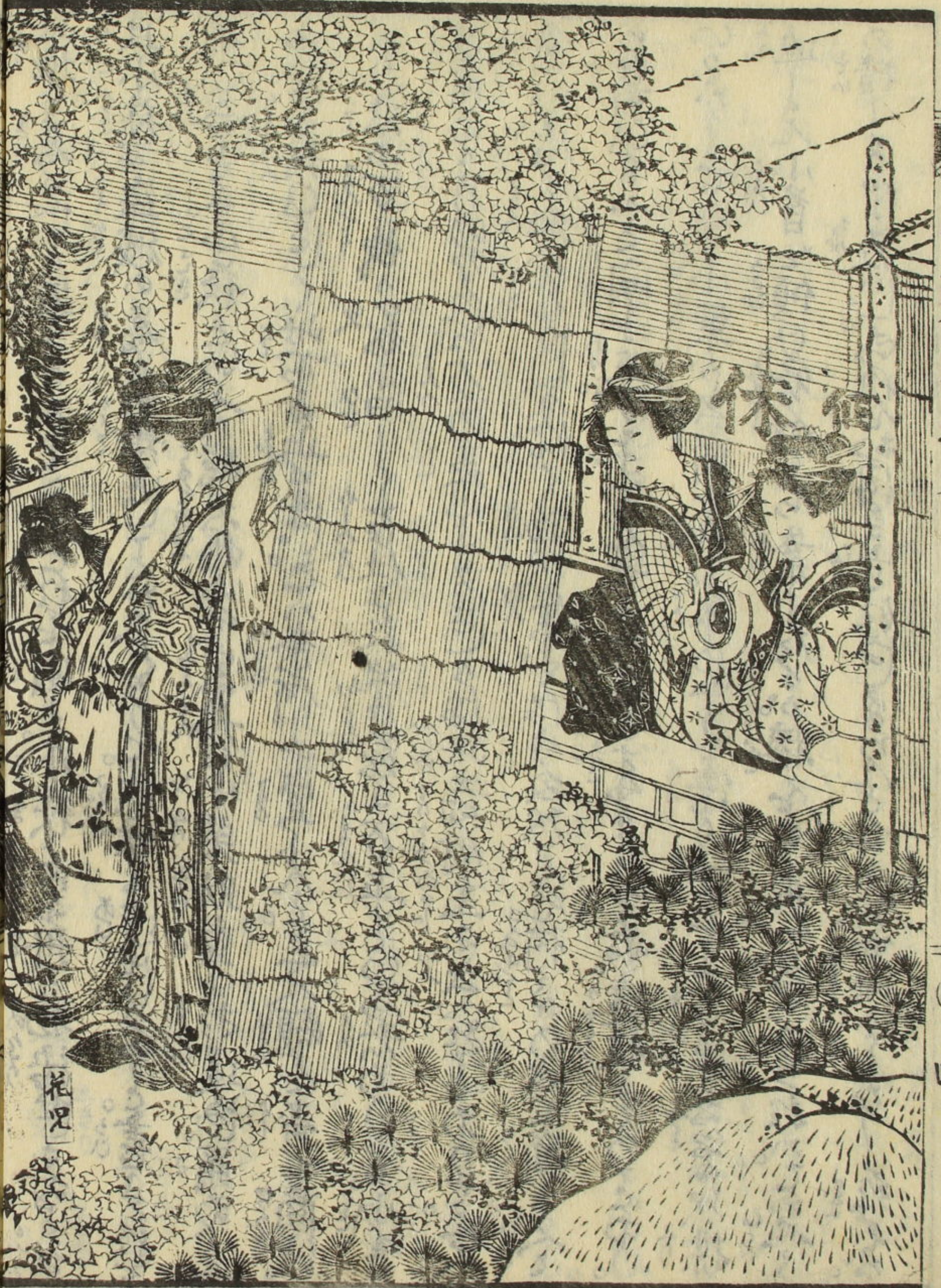
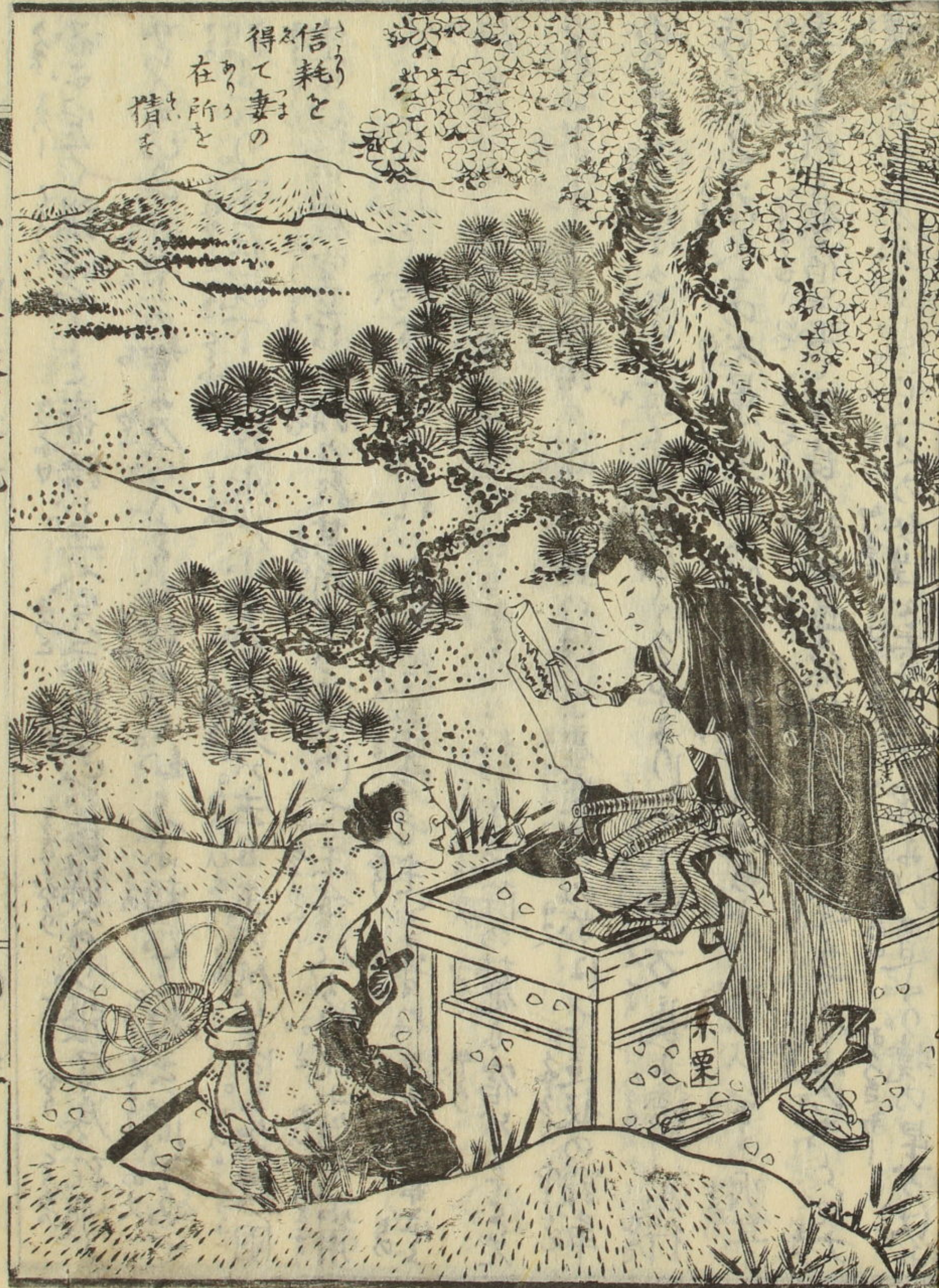












八景

小栗

花見

四







使そとのあつては。免は國青墓は。は万長が許より。と一討の申面を。お  
 を。為久とて。て。小を即。の。丹と。記。き。久。お。頂。き。討。は。断。く。  
 清。め。が。前。目。汝。行。より。書。簡。を。尋。り。付。の。折。り。く。め。て。毒。し。たる。  
 と。い。え。ざ。り。た。そ。も。く。某。宝。光。院。に。詣。り。付。此。國。青。墓。は。は。万。長。が。母。子。と。  
 彼。の。寺。に。詣。り。て。西。少。年。の。為。に。困。ら。し。め。我。入。る。を。忍。び。て。これ。を。救。ひ。て。  
 遂。に。母。を。半。よ。り。て。万。長。が。女。婿。と。お。れ。り。是。我。海。く。無。忌。と。後。め。り。て。母。  
 多。く。の。縁。故。め。り。て。か。む。て。な。く。做。せ。る。ゆ。え。速。に。脱。走。入。り。て。守。衛。の  
 人。多。く。入。り。捕。入。の。に。今。幾。は。今。も。あ。ら。ず。守。衛。の。人。を。略。し。て。脱  
 走。し。汝。の。母。を。救。ひ。し。少。の。命。を。救。入。り。此。人。の。勝。り。す。と。入。り。此。人  
 の。み。我。の。心。を。傾。け。て。厚。く。公。を。その。者。に。少。も。疑。わ。さ。う。と。び。と。書。記。せ。り。  
 為。久。の。主。の。跡。を。し。照。天。姫。を。使。は。し。て。お。と。是。彼。の。ひ。め。と。お。疑。わ  
 る。う。も。な。る。が。時。夫。に。對。し。足。下。の。我。主。丹。の。優。血。を。入。は。し。其。志  
 未。承。く。と。い。今。主。人。より。我。は。る。と。只。今。俄。に。救。入。り。暫。時。未。承。を。待  
 り。入。り。た。れ。と。少。き。縁。故。め。り。て。宿。か。ど。西。三。日。の。うち。に。調。達。で。い。ま。り  
 送。り。や。ま。り。入。り。爾。ち。と。も。妨。が。り。や。否。脚。夫。の。金。の。と。も。て。と。入。り。こ。も  
 宗。丹。主。我。家。を。す。ゆ。の。め。り。に。お。の。主。の。女。兒。深。く。懸。念。し。て。強。て。婚。姻。が  
 かつ。せ。り。然。る。が。宗。丹。主。の。志。を。これ。を。喜。ぶ。と。脱。走。去。ん。と。も。め。り。主。を。恨。む  
 情。一。娼。妓。と。し。て。館。に。お。も。て。こ。も。守。衛。と。い。ひ。其。熟。く。は。丹。屋  
 の。光。景。と。お。知。ら。ぬ。が。母。子。を。あ。ら。ぬ。豪。傑。の。然。り。我。主。を。必。ず。贅。婿。と。成  
 て。一生。を。果。す。か。人。の。め。り。且。小。兒。の。救。れ。こ。も。婦。女。子。の。守。衛。と。い。ひ。恨。む。と。  
 脱。れ。出。る。の。を。思。入。り。一。大。子。を。懐。く。ま。故。母。の。子。を。恨。む。と。い。ひ。て。  
 婦。女。と。い。ひ。欺。き。後。難。さ。ら。ん。か。う。と。い。ひ。去。る。心。な。ら。ぬ。是。千。金。の。奴。と。い

使そとのあつては。免は國青墓は。は万長が許より。と一討の申面を。お  
 を。為久とて。て。小を即。の。丹と。記。き。久。お。頂。き。討。は。断。く。  
 清。め。が。前。目。汝。行。より。書。簡。を。尋。り。付。の。折。り。く。め。て。毒。し。たる。  
 と。い。え。ざ。り。た。そ。も。く。某。宝。光。院。に。詣。り。付。此。國。青。墓。は。は。万。長。が。母。子。と。  
 彼。の。寺。に。詣。り。て。西。少。年。の。為。に。困。ら。し。め。我。入。る。を。忍。び。て。これ。を。救。ひ。て。  
 遂。に。母。を。半。よ。り。て。万。長。が。女。婿。と。お。れ。り。是。我。海。く。無。忌。と。後。め。り。て。母。  
 多。く。の。縁。故。め。り。て。か。む。て。な。く。做。せ。る。ゆ。え。速。に。脱。走。入。り。て。守。衛。の  
 人。多。く。入。り。捕。入。の。に。今。幾。は。今。も。あ。ら。ず。守。衛。の。人。を。略。し。て。脱  
 走。し。汝。の。母。を。救。ひ。し。少。の。命。を。救。入。り。此。人。の。勝。り。す。と。入。り。此。人  
 の。み。我。の。心。を。傾。け。て。厚。く。公。を。その。者。に。少。も。疑。わ。さ。う。と。び。と。書。記。せ。り。  
 為。久。の。主。の。跡。を。し。照。天。姫。を。使。は。し。て。お。と。是。彼。の。ひ。め。と。お。疑。わ  
 る。う。も。な。る。が。時。夫。に。對。し。足。下。の。我。主。丹。の。優。血。を。入。は。し。其。志  
 未。承。く。と。い。今。主。人。より。我。は。る。と。只。今。俄。に。救。入。り。暫。時。未。承。を。待  
 り。入。り。た。れ。と。少。き。縁。故。め。り。て。宿。か。ど。西。三。日。の。うち。に。調。達。で。い。ま。り  
 送。り。や。ま。り。入。り。爾。ち。と。も。妨。が。り。や。否。脚。夫。の。金。の。と。も。て。と。入。り。こ。も  
 宗。丹。主。我。家。を。す。ゆ。の。め。り。に。お。の。主。の。女。兒。深。く。懸。念。し。て。強。て。婚。姻。が  
 かつ。せ。り。然。る。が。宗。丹。主。の。志。を。これ。を。喜。ぶ。と。脱。走。去。ん。と。も。め。り。主。を。恨。む  
 情。一。娼。妓。と。し。て。館。に。お。も。て。こ。も。守。衛。と。い。ひ。其。熟。く。は。丹。屋  
 の。光。景。と。お。知。ら。ぬ。が。母。子。を。あ。ら。ぬ。豪。傑。の。然。り。我。主。を。必。ず。贅。婿。と。成  
 て。一生。を。果。す。か。人。の。め。り。且。小。兒。の。救。れ。こ。も。婦。女。子。の。守。衛。と。い。ひ。恨。む。と。  
 脱。れ。出。る。の。を。思。入。り。一。大。子。を。懐。く。ま。故。母。の。子。を。恨。む。と。い。ひ。て。  
 婦。女。と。い。ひ。欺。き。後。難。さ。ら。ん。か。う。と。い。ひ。去。る。心。な。ら。ぬ。是。千。金。の。奴。と。い











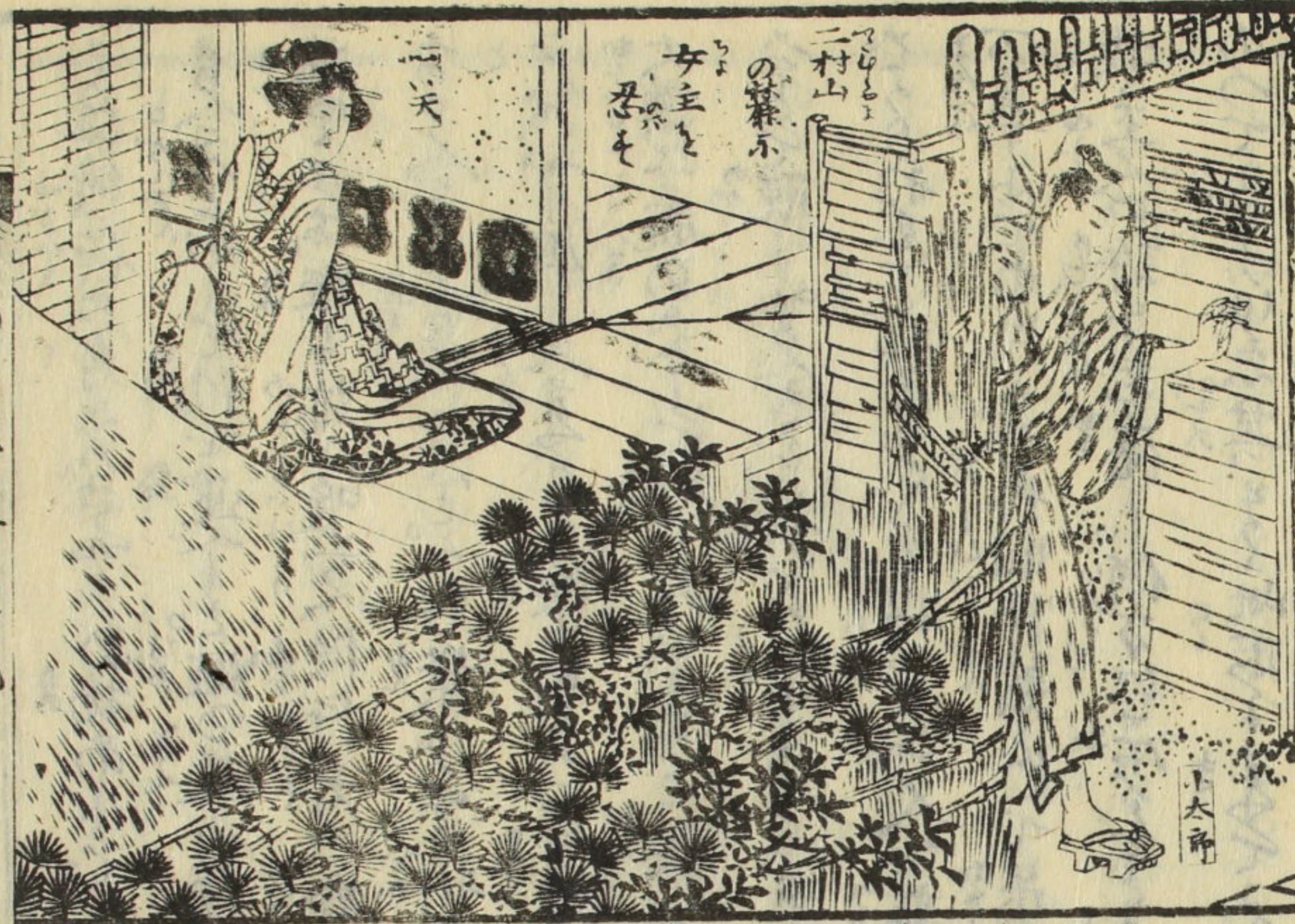
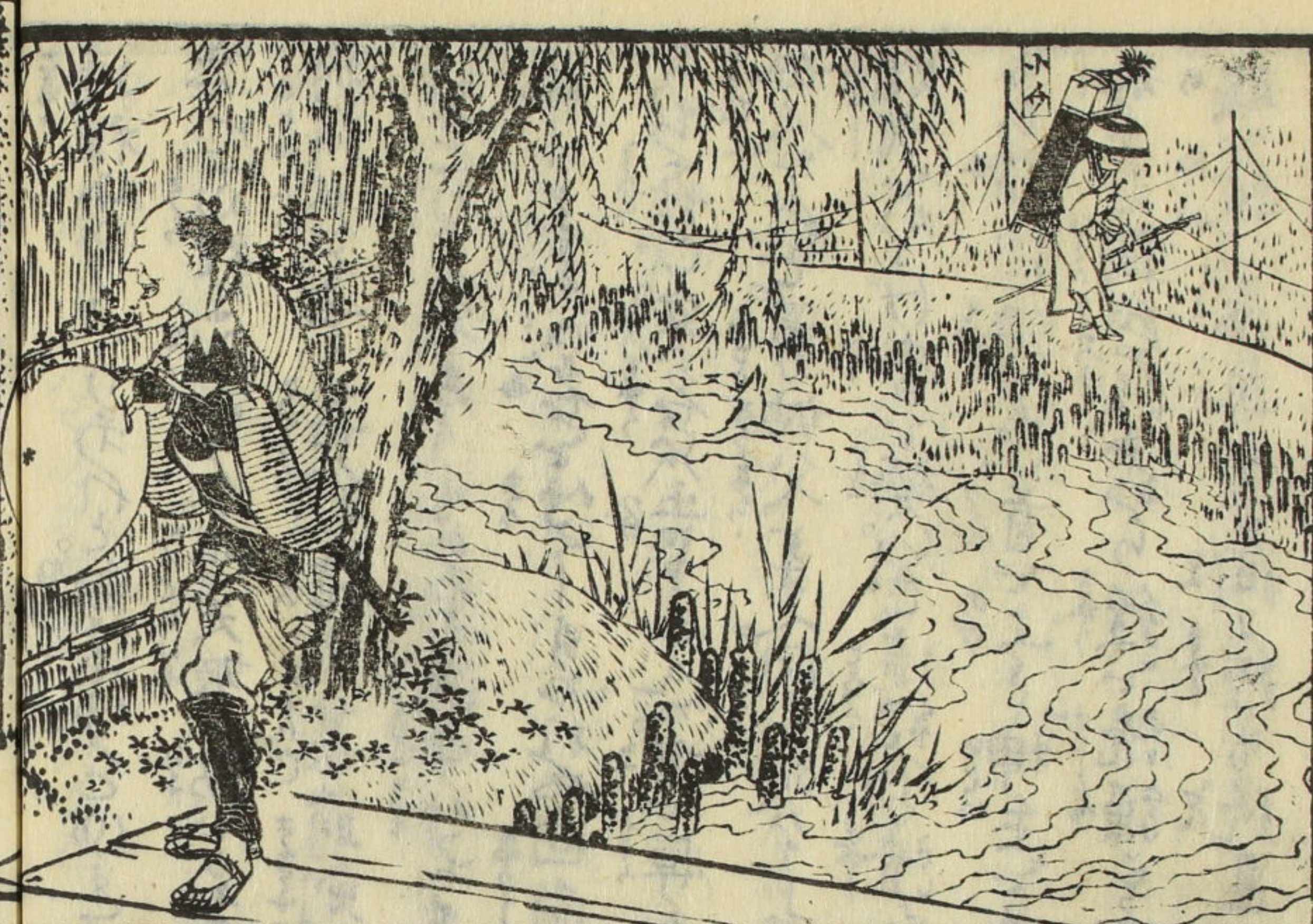
今の才女も。俄に後許の合れぬ事あるや。やあ。いとむらやう申今。こゝろ  
 事たる。このふらふと。仍ね察する処。今いひ。不義横道を。做すてめ。この  
 才女。換つた宝。よあ。と。我を。と。付。入。と。い。か。の。の。肯。さ。ら。わ。が。難。さ。な。く。此  
 短刀。を。も。も。と。小太郎。う。入。か。さ。置。か。る。え。り。て。こ。し。と。ん。ん。錦。の。は。依。お  
 へ。り。短刀。か。ら。う。の。紐。を。解。き。鞘。を。と。り。と。熟。く。え。ん。ら。明。光。く。と。四。方。を。照。し  
 氷。の。ど。え。又。く。為。久。公。と。想。ふ。事。其。今。夜。入。と。我。を。憂。恤。も。い。つ。は。ま。さ。か。ん。こ。を  
 猜。し。才。女。換。つ。た。宝。と。よ。あ。思。事。を。止。め。め。う。と。我。を。憂。恤。も。い。つ。は。ま。さ。か。ん。こ。を  
 忝。一。熟。く。い。ひ。惟。せ。う。う。か。主。君。の。為。と。い。く。金。の。け。き。も。仇。も。な。れ。人。の。命  
 と。い。ら。ん。と。い。ら。我。さ。が。も。浅。猿。や。原。本。不。義。を。做。う。ら。天。罪。い。て。道。を。入。や。  
 忽ち。罪。科。申。せ。ら。れ。ん。我。才。の。事。を。厭。う。終。り。も。の。事。の。あり。も。せ。ら。姫。の。心  
 才。女。か。こ。の。人。園。は。こ。の。あ。ら。忠。義。の。あ。ら。じ。不。如。姫。の。命。を。さ。し。こ。の。短。刀。を  
 背。肌。の。ら。ち。り。申。け。け。入。用。の。合。細。入。と。い。と。決。め。あ。ま。と。は。入。さ。り。り。終。る。  
 命。有。が。う。こ。き。り。の。甲。斐。な。れ。此。才。を。憂。恤。も。い。又。さ。ら。賢。を。懸。け。て。あ。ら。  
 冥。加。さ。く。畏。た。れ。ち。日。と。む。ひ。ま。ま。し。背。付。此。短。刀。を。懸。け。る。今。宵。の。因。り。早。を  
 り。て。金。細。へ。く。還。り。や。え。ん。物。淋。く。ら。も。も。憂。を。堪。へ。行。き。と。彼。短。刀。を  
 携。へ。て。何。方。と。も。な。く。出。行。き。照。天。の。跡。を。唯。一。人。を。執。方。を。案。ぶ。ら。う。ふ。は。に。あ。ら  
 夫。の。才。女。は。う。ら。か。ら。り。行。き。あ。ら。思。ひ。い。と。い。き。も。清。く。と。細。く。も。こ。の  
 悲。し。き。日。の。西。山。を。あ。ら。い。ら。の。う。き。も。知。ら。ぬ。山。里。の。時。の。む。ら。り。鳥。声。も  
 の。り。ね。や。鐘。鼓。の。音。柴。門。の。外。面。に。入。へ。る。照。天。姫。と。い。と。女。最。後。の。う。ら。の。め  
 終。ま。て。畏。く。も。母。上。の。忌。日。の。う。ら。ら。香。華。を。い。ふ。供。せ。り。に。合。門。の。外。面。に  
 後。行。者。の。才。女。の。ほ。る。こ。を。幸。な。れ。む。と。う。の。の。う。ら。ら。て。母。の。善。程。を。吊。り。ん。と。  
 ち。り。ち。り。て。何。と。い。ふ。と。四。方。を。照。れ。も。も。家。の。家。の。家。の。物。さ。れ。珠。の。



小ぢ町家母居る様だ。いづれ何のあやうに定り物と布らひの何とかな  
と云ふ附外面より一修行者が柴折戸のけて家裡に入り。いづれ母を主母の  
やさん其のうら回國後の事と云ふ。今日此地方まで日とくし宿る  
をた方なくて殆難義母及びひのめれと云は。養子に瑞彩塔の下も厭ね  
一夜を明はしとびるやと云ふ。母照天姫はし祝きけ。修行者もはく  
えつふ齡の五十を過ぬらん。養父の相とあまきとあつら。まご健ある海子まで  
腰より沓を結び付て。木と杖とを拵。小腰を曲て  
居るけり。其光景の殊勝なる。何と云ふ。今家主する人の化よ  
物より。素より奴家此家の人のあやうに。肯てきかむと云ふ。修  
今夜奴家志と亡人のい。這裡に入り。これ回國をな。いづれ母を  
主の還やさん。其附より。今夜の宿をば。いづれ母を。

這裡よりいづれと。照天姫の何と云ふ。厨の辺に。修行者もはく。喜び。修  
かて。修行者も入ふ。照天姫の何と云ふ。厨の辺に。修行者もはく。喜び。修  
修行者も。其公を。其前刺志と云ふ。いづれ母を。宣か。いづれ母を。  
は。いづれ母を。いづれ母を。いづれ母を。いづれ母を。いづれ母を。  
は。いづれ母を。いづれ母を。いづれ母を。いづれ母を。いづれ母を。  
ら。いづれ母を。いづれ母を。いづれ母を。いづれ母を。いづれ母を。  
母人なれど。舅姑父と云ふ。回國後。いづれ母を。いづれ母を。  
燈明を。いづれ母を。いづれ母を。いづれ母を。いづれ母を。いづれ母を。  
ら。いづれ母を。いづれ母を。いづれ母を。いづれ母を。いづれ母を。  
知。いづれ母を。いづれ母を。いづれ母を。いづれ母を。いづれ母を。  
眼を。いづれ母を。いづれ母を。いづれ母を。いづれ母を。いづれ母を。





小栗卷之六

牙を食してころくした物もさるるに  
 おもひさすやうなれと今夜回向を頼  
 られ布施の澄みなきとらけつらめ  
 めひ福と二面の鏡を牛の尾に結ひ若  
 誓ふたの思ひけむとぞりあふつら付  
 言々。姫の秘をうち守りて有りうら  
 かのつて云られ。今夜宿じまると  
 こゝろは法謝と存ぞり。いふで別小  
 賜が受まふり。それこころと鏡を  
 らんては戻せ。姫再之再四とせど  
 さぶつて修行者とお戴ひて熟  
 着る。蜀江の錦を裏へ八段の法  
 これとさうり頻小涙と随せ。かおら  
 鏡が受あさめ。志の施物受すわじ  
 あり。いまま家主も還るるがれ。斯  
 中とこれなく畏られ。今日をいそ  
 労とあま。頻し睡と作す。かそ  
 りゆ。尾の龍もへん。いと。免見と  
 蒙りて一睡といは。なんと云。まそ。めん  
 這裡の人の入あつて。そ。睡小就。ま。人  
 負家。あ。ま。ま。衣。ゆ。ゆ。い。ゆ  
 恥か。ま。し。と。ま。ゆ。ゆ。野。臥。山。宿



と修徳行の身あつたやうの物あつては家主の還り身まゝの咄おとし  
めん糸くを速くと姫の教はゆはけ一室の裡にたち入て枕を就  
睡するは姫を跡に唯一人修行者の辨たしくいと怪しきてゆく考へ何  
ある人あて有やうとうち案じたる折々に外方候へ開く五人の大漢子  
戸にお倒し入身は姫のおもつた迷ひは奥の方へ走り前へ進じ  
大漢子腕のむして襟がみとあつと捉へて戸へいり身小に斬新なるうら  
ると脱しゆえきそ我を誰とあつと云ふ照天の音も消くゆも失せ  
さうの形もどおそくも捉へて人を熟くうち着るとが万長が髪をかき  
万平よめありくを再回愕然として呆然たり万平呵くとらち笑ひおの  
我主人の許と欠落し何方に居るかと多し修行徒を捜索求しあ志願よ  
めて告しゆ急其まゝ此女も身もて入れが生けるか差やと此家よ居るぞと

思ふは汝を奪ひくは盗人といふ此家の主あてこそわりの身よ名を何と  
中ぞ何方小陰に居るこそとぞ牛一様とりきりて罵叫くをよへ美く  
小妾即為久と母やむく金と細くまじり姫の待り人と心急しくし  
度り我家の門辺に居るるとは裏お人のしきまき声いと開くゆえこ  
ゆえに急ぎまはれ走り入る。それこそ姫や姫君と。四人とてまゝ世狼籍  
ゆへ先景なれば言ひもいふとぞお花かた。姫を捉へて万平とぞて彼女は投  
はけり。姫をかちめてまゝりけり。万平影をあらはれ。まじりて小妾即を執へ  
と着てまゝりけり。我を必お抱へて此女盗られはるをまじりてヨ守南んて  
連ゆくと妨ると盗人のよく女を渡さると知縣は訴へて汝を罪とせえ  
と。言語あらはし馬且つ水を即を念と想へとも荒らてまゝ悪うりな人と  
怒れおまゝ人言を和め我りて盗人と思ひ考へも道はかり。我の三月の



未だ。所用あつて美徳國青墓の宿を朝までたゞ通りのかゝる。つら。三四人の大漢子一入の女性を牽く。連行さぬも不審さふ。近き。まにさしうつて。さう。傷ま。此女を。亦小由緒の。の。され。子細。とら。大漢子と右と左。逐去。し。けし。還りて。縁故。と。同。人。商人。も。白引。万長が。汗。も。賣。渡。され。彼。亦。あ。う。ち。不意。盗人。の。乃。も。奪。れて。この。罪。た。ら。く。お。及。び。ぬ。と。語。り。あ。つ。て。音。問。あ。く。今日。まで。ち。拾。産。し。り。つ。過。お。似。れ。れ。も。夢。く。撲。通。る。ま。あ。の。は。い。つ。め。ゆ。して。金。銀。へ。女。性。の。才。價。傍。り。ん。と。思。ひ。て。今日。まで。延。り。せ。り。叔。又。今。の。を。れ。の。と。足。下。の。才。上。知。り。され。盗人。さ。う。や。と。思。ふ。ら。は。い。ん。た。ら。ぬ。お。及。び。ぬ。是。まで。の。み。の。水。は。して。何。れ。此。女。性。と。我。は。い。さ。し。保。ま。る。其。才。價。と。幾。許。ぞ。と。云。ふ。万。平。面。と。和。下。げ。は。下。に。り。て。多。な。れ。と。外。へ。て。せ。ば。主。家。の。も。益。さ。れ。半。也。か。保。

それ。奉。さ。る。の。と。あ。き。う。め。て。サ。念。を。遠。く。過。き。り。半。を。除。て。高。價。に。と。も。く。此。女。性。の。主。人。万。長。尾。張。國。へ。往。し。と。れ。人。商。人。の。幼。ま。り。此。女。性。知。見。り。し。が。眉。目。容。貌。の。美。麗。な。れ。ば。娼。妓。と。せ。ら。れ。と。想。あ。う。る。四。百。貫。文。を。買。り。て。けし。還。り。多。し。と。云。合。し。う。と。性。強。く。主。の。命。に。懸。任。せ。と。思。ひ。て。娼。妓。小。な。と。り。命。と。縮。人。光。景。を。買。扱。し。う。ら。う。そ。け。り。の。と。主。も。始。り。て。除。下。婢。と。し。置。り。斯。む。り。形。縁。故。な。れ。ば。本。價。あ。つ。て。賣。ぬ。へ。し。は。と。さ。ら。其。數。の。錢。と。換。ん。と。す。こ。の。ふ。小。寺。郎。頭。首。い。つ。ゆ。も。云。一。價。を。て。買。ぶ。と。れ。さ。も。今。急。か。せ。錢。を。身。付。く。後。に。此。月。の。未。だ。で。行。ね。万。平。首。と。左。右。ふ。う。ち。ふ。り。も。成。が。ど。く。辛。く。と。漸。く。と。る。當。り。此。女。性。の。手。う。足。下。は。強。く。素。手。で。歸。ら。ば。主。に。對。し。海。と。云。沃。あ。る。き。ぞ。是。お。の。奉。り。あ。り。し。り。錢。の。あ。ら。び。女。と。渡。せ。と。云。は。し。姫。の。手。と。み。く。行。ん。と。さ。ら。と。小。寺。郎。の。懐。中。に。







出行ぬ。そもく万平が世所よまゆりの照天を誘ひ還り。知らぬまを記し入る。
 小栗は思ひ明らま。花見と承く夫婦たふ。あんとせし。小栗は不意
 令をひく。姫の身代を傍ひく。其謀空しくなり。紙川のうらま
 金に投交し。りの誰そ。その下回に説解を誘て知多し。

第十六編

両雄議て居を濃州に移す  
 妬婦怒て怨を草庵に述ぶ

且況その時照天姫を万平が出行後背をえ送りて。小栗即ちら對ひ奴を
 前よびく。万平が狼籍よはぎれて云さる。おんまが家よ居く。なら
 一人の修行者よ宿借して彼よ床に置り。只今金を投交し。おのそ。彼の
 修行者よあんとら。と云ら。小栗即ち。その奈何なる。謂てま
 の英命をまへ。と不審ま。紙門を扱きま。りの入る。この

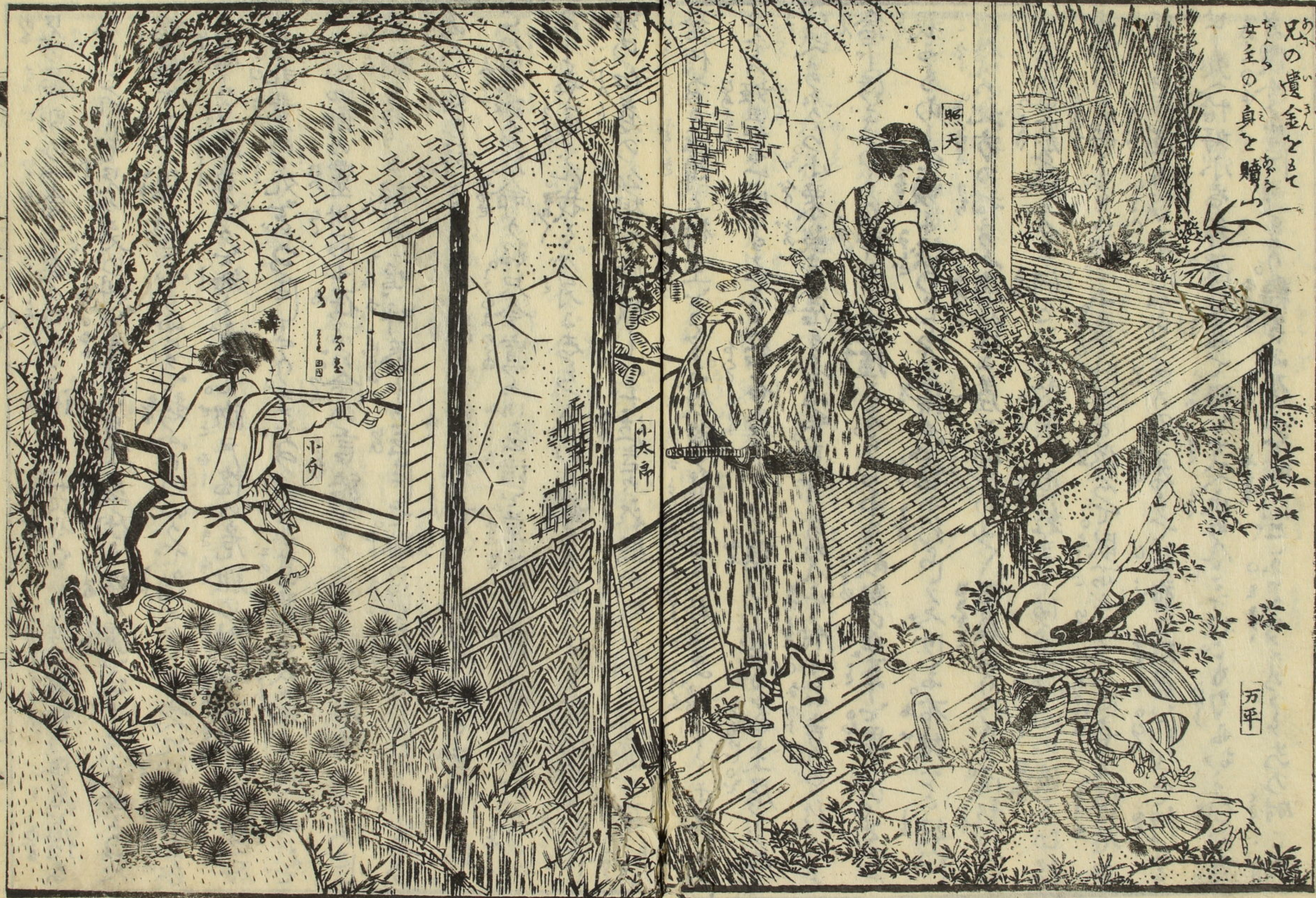
伯父らう。後小助。修行者の姿を打扮てま。小太郎と目
 吹然と驚れ。何とも言ひ。只呆れて居る。其時小女。姫
 對ひ平伏し。某の由家譜代の由家。隸後小女。の由。と云
 小を町と願ひ。母甥のとの。終る音。伯父が光景。さそ。
 我もま。此が姫君を傳き。此よ居ること。さら。不審。
 空。ま。某が父の上と語り。受え。小栗殿へま。りて。后見小栗
 高瀬。姫君を尋ま。小栗殿と誓。とせ。と。又。
 と。ま。漁師と。武州の浦の里。居。只願。姫君の。去。向。
 秋。不意。姫君。我家。宿。り。多。ひ。我妻。後。
 大殿の。も。知。て。あ。ひ。が。は。仔細。各。告。ぐ。ん。
 継子。小栗判官。との。連。添。人。と。腹。悪。う。る。の。邪。う。



夫人とて瀬戸橋の上にて殆害せんとする危きをも免れし見小四郎が母ふ  
 ままひ跡めて妻を殺すに殺しつり。さて又兄の小四郎の姫君なりと  
 知りてせむ代國戸子佳くはし跡めて姫君なることを知りて先非を  
 悔ひ身價を我母多人に在家と搜索はかりし此金りては身と償ひ小栗  
 いの奉事まよとくねくねと生害せりとて小栗又驚れたる我父死  
 り鳴呼志はしつりとたつりに流涙してを嘆えたり。汝が嘆えたるこ  
 ろから。此后の物語を熟くして父の志氣を續けたるは上とて孝まは  
 ると静めて能く秘と流く又も流りたる。さてもまよりその令父つる受  
 納めは行歩と搜索して今日此山へ巡りまきて不料も姫君の山陰に  
 一夜の宿を乞はる兄小四郎の神靈のいとあつとて宿借りしと  
 姫君も我の知りてありたるにてくこの回面して。赤庵に流るる

奈何ある法諱と神主とて故殿名武を先君は主婦もわ  
 さいる姫君もははまことと始名告りまんと想ひつるも家主居らぬと  
 父へあつら小栗殿へ居らぬや。還りぬるに付お名告んとはれぬと  
 念下は。さあぬ辨めて流経とる。うちも故殿の御事と思ひつる  
 我母のわを頻に涙のたらり落るる物お終らししゆ。布施を初心  
 以鏡の北方のむら唐鏡の差りゆが。よく姫君ありけりとの教をせ  
 物よりし空をひらうも何となく故殿の面影まはせが懐回の涙もは縁  
 ふごりの公苦しくはるふ草卧ぬと依りて臥ふ入る忍音は法居居  
 折る不園も下平とかりん云の事ありては辨り姫君を討て行んと  
 せし処へ恰好小を弄還り來て姫を支へ止めん。これにも力もあつた。さ  
 身價合ふさし。まよりの難儀及及と紙門にこゑをききつるその時こそ





兄の遺金をとて  
女主人の身と贖ふ

小太郎

小天

小太郎

万平

小太郎

十七



兄の最期の一念と遂る時を託して託する。其命を以て投支姫の心身を憐ま  
 へば。これにて兄が才の科を免はしむると平伏と姫の涙をわらわらせしむるは  
 奴家と主と想ひさやどまもてあふもの。のうで怨むことあらば必竟奴家  
 が愚より忠臣たるを知らざして御戸格の危難の附名吉をなぬゆゑと  
 りて非業の死なむはしむる。さうなると其罪を奴家がうへぬは  
 か。小四郎の靈此所在る。今の言語をよくなれば汝が孤忠のこころは  
 感謝をいつか辞は嗚呼忝と云はして跡の涙も理もなし。小女。小女  
 友人の姫の辞をうち受の悲しみの中れ喜びみく涙を拂くまのりは  
 この冥加する命うね只今宣ふは云語を草葉の蔭をて小四郎の冥加  
 するも承らん我くが才よまむと云ふと畏くもありとて幾許回かたき  
 姫の仁慈の心根を感佩してま泣きながら照天姫の姻ぐる涙を奴の程

あつておし扱ひはしむる。汝等一族甲斐なれば奴家も思ふ我とては  
 艱苦を予はせると。小女。今の物語も委しく知りぬ。今も不料おはす  
 宿。事らう及びいへ父母の言霊よりして此才お事と下しむる。幽冥お  
 めての斯ぐる。神靈の在りて又さう。陽府おはすと其所はかと明らか  
 りくぐる。馬の道は坂東よもゆる。世に武士の横山づねおらくと非業の  
 死なむ遂多し。さぞいふ念も在らん。奴家とては知るまじ。横山よまのり  
 爾くの縁故もて斯るなりと横山よ誘引く相摸路の松屋堂村お隠  
 りし。こと話の首と母の病死助重も還會。毒酒の危難もくま。婿はけり  
 其のちまいて。許は責償され再びま。還會。今又こつお事。こと終りゆ  
 かく物結ね。小を郎も主の小栗が才の上と語り受と。小女の姫の落  
 命をやくふ哀しく涙よられは俯ひて居り。う。夕果て后静かりよ。再らち



かゝる幾回嘆賞好くてまづの尋ねの女性よりせむらうて爾る報解ふ  
 堪ゆべき実や姫君の四通菩薩の授ふと承る凡なるがはるがの意こそ  
 昔前を守りしつゝの物語はさまぐの危きもの多かりを脱きまふと  
 正足親音菩薩の冥助し。かゝる慈護のあらむ。中ては運も幸く  
 公衆へおほせよと云はこゆまが照天姫家武運中かゝるひつら夫助を  
 と誌さもお模山一色二人の能討て小栗と名武の家は冤罪の巧名を置  
 る后我夫再び世もあぶあつらう功も賞し夫婦を従今の憂を昔流  
 むみへん力を助けて志まき。果してよ人と云ふ小介も小を即も  
 首をむびてまづの命すでもゆらと云ふ此方の内將もかゝるはる  
 ともいふて厭えを強くおほせよと回意果て小を即へ小介お討ひと  
 云ふのあら其熟く思惟とるも万平姫の在在とあるのいふらひはる

此少よ思ひし中に入奉然とるものゆらと云ふ此正を立退れ是流まある  
 青墓の近き辺りもあつらうと云ふは夫婦は再會の便あつらんまこ東風  
 居あつらうの密使をりて告知ら。是彼熟く示合し。奉意を遂んぬ  
 いちもと高嶺をるせむ小介首首のまらめて宜謀りの助を君俄ふ  
 万長が許を去るが彼を怨を懐き小栗殿もるもを世のゆはせがはま  
 の心身に害あらん我えまくれぬぞ幸の万長が方お立城とまのをひて  
 小栗の母えま。彼正の光景を窺ひ謀りて殿を誘ひ身もるをて  
 伯父と甥と高嶺をまめ。姫もあつらう知し即日三洲に立退是流は  
 杭瀬川の辺めてかゝるの草屋を傍し主従三人此地方も志のび  
 居るぬ是より前小太郎姫の守刀を質し少の令を渡すのし其令  
 りて此草屋を償ひはる不願且説小栗助重の使を遺てり。只願



そのへん 返問とまらぬ 忽ち使降の事にて報るらん。此書とりて三冊  
 支城二村山の麓より。此處家を尋ね小栗郎と見え。則ち此書次々  
 小栗郎の事の中へ。只今の去つた所用ありて。此は出行のれが。此は回意  
 明日とせんとせんと笑へり。其近辺に宿の聖躬まわりの人。何處へ行  
 々空しく家のみして。さうに人まはし。近辺よ人家もゆるび。同乳と見え  
 こゝがも好く。まゝの還りのゆゑ速く。小栗郎と不審使のまゆかともあり  
 實のゆゑに。姫も彼所へ行つた。小栗郎奈何なる心もて。さうさうは  
 おろそかに。ゆるして。あらん。とて。念とれど。乳と見え。やうな。獨心と  
 惱し。多の。さて。まゝ。万平の豫て。謀し。と相違。照天が。月價と。よ。られ。詮  
 せん。な。て。其。場。の。ま。り。ぬ。や。後。照。天。と。奪。つ。と。再。び。小。栗。郎。が。海。へ。行。く  
 ころ。ふ。ゆ。方。へ。行。く。報。も。は。な。さ。な。と。想。へ。と。ぬ。人。の。中。う。あ。く。ま。と。空。を。し。て。還



